

東久留米市立南町小学校 第4学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や漢字など言語を理解していない児童が多く文章を読んだり書いたりすることに課題が多い。 ・文章を音読する場合、本文に基づいて読まず、自分で読み替えて読んでいることに気が付かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活日記を通して、文章の組み立てや気持ちを表現する言葉を使う経験を多くもつようにする。 ・音読の家庭学習に合わせ、授業の中で音読を行い自分の読みが正しいか確認する時間を確保する。個別読みを定期的に行い教師が確認する時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎70%以上の児童が正しく文章を書けることを目指す。正しくない場合には直しを入れる。 ○説明文、物語文の音読、個別読みの時間を週案に明記する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験が少なく、今学んでいる学習内容と実生活を結び付けて考えることができない。 ・都道府県名や都内の区市町村名など基礎的な知識に欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入では、実生活と結びつくような問題場面を提示し、学んだことを家庭生活でどう活用できるか振り返る場面を設定する。 ・百地図などを活用し名産品など関連する情報と合わせて学習する場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のまとめで、実生活と結びつく振り返りを、70%以上の児童が書けることを目指す。 ◎2学期初めと終わりに都道府県テストを実施する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項である繰り上がりのあるたし算・くり下がりのある引き算、かけ算九九ができない、時間がかかる児童が多い。 ・文章題に立ち向かおうとしない児童がいる。また、問題をよく読まず正対した答え方をしない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入場面やドリルタイムで、既習事項の復習時間を確保する。 ・文章題で何が問われているか、全体で確認する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項の小テストを行い、正答率80%以上を目指す。 ●ワークテストの文章題で、正答率70%以上を目指す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードなど理科学的な視点で事象を捉える力が身に付いていない。また、自分が考えたことを言語化し記述することが難しい児童がいる。 ・生活経験が少なく、今学んでいる学習内容と実生活を結び付けて考えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつか観察する際の共通する諸感覚と関連させた視点を明示し観察・実験の際に繰り返し確認する。主に国語科の中で語彙数を増やすとともに、他教科等も含め自分の考えを表現する場を設定する。 ・導入では、実生活と結びつくような問題場面を提示し、学んだことを家庭生活でどう活用できるか振り返る場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○示した観察の視点が書けている児童70%以上を目指す。 ○単元のまとめで、実生活と結びつく振り返りを、70%以上の児童が書けることを目指す。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・私語が多い児童、集中できない児童、多動傾向の児童等が多く、クラス集団の人数が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律が要の学年。ルールを徹底して全力で楽手に向かう姿勢をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎リコーダーの技能で、70%の児童がペア学習で技能をマスターできるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで表現する児童と、一定の表現でそれ以上考えない児童と学習に対する意識に個人差ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の雰囲気を落ち着かせ、学びに向かわせる雰囲気を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで表現できる児童70%以上を目指す。

体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から運動を進んで楽しむことができる児童と、体を動かすことが苦手な児童の能力差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特徴を生かした指導法を工夫し、めあてをもって運動を体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてに沿って学習している児童70%以上を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム性の高い運動を好む児童が多い。器械運動や鉄棒運動に苦手意識をもち、握力が弱い傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・握力を鍛える運動や柔軟性を鍛える運動を普段の授業に組み込み、継続して行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年末に握力を測り、力が付いているか確認する。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について把握する展開前段では意見を言える児童が多いが、価値の一般化や自覚化の場面になると意見が言えない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り価値に迫ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の生活を振り返り価値に迫る感想を書く児童70%以上を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の前に自分の考えを書くことに時間がかかる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の心情や、話し合いの過程が分かるように板書の仕方を工夫する。ワークシートに書く部分を精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎価値に沿った考えを発言する児童70%以上を目指す。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の学習が好きで進んで取り組む姿勢が見られる。コミュニケーションをうまく図れない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション活動につながるよう表現の仕方を繰り返し練習し、習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎コミュニケーション活動の際に、90%以上の児童が自分で参加することを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを行う際に、ゲームそのものを楽しむことに目がいき、習熟に結びつかないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム性のある活動の際には、学習形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ゲームによって70%以上の児童が言葉の習熟ができることを目指す。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題は追求できるが、自分で課題を見つける力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけるための手立てを示す。課題について意見を交換し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題について意見を交換する場面を意図的に設け、70%以上の児童が自分で課題を見つけられるようにすることを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・調べることはできるが、そこから自分の考えをもち、まとめることが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が一人一人の課題をよく把握し適切に助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童と課題の確認と助言をし、70%以上の児童が自分の考えをまとめられるようにすることを目指す。